

平成 25 年度 四国ブロッククラブネットワークアクション 2013

開催報告

日時： [1 日目] 平成 25 年 11 月 9 日（土） 13：00～17：30
 [2 日目] 平成 25 年 11 月 10 日（日） 9：00～15：00

会場：香川大学幸町キャンパス（香川県高松市）

内容：

[1 日目]

■開会式

■参加者交流アイスブレイキング 講師：川田礼子 氏（香川県レクリエーション協会）

■クラブが「生き残る」ためのテーマ別徹底談議

①クラブ基盤強化のための toto 助成事業との出会い

【徳島県】NPO 法人うだつコミュニティスポーツクラブ/佐藤和子 氏（クラブマネジャー）

②ちょっと背伸びをしたクラブ運営

【高知県】一般社団法人高知チャレンジドクラブ/片岡優世 氏（クラブマネジャー）

③スポンサーを見つけるための秘訣を教えます！

【愛媛県】NPO 法人おおずスポーツクラブ/谷本稔 氏（クラブマネジャー）

④行政と総合型クラブのイイ関係

【香川県】三木町長/筒井敏行 氏、さぬき三木スポーツクラブ/藤本昭三 氏

[2 日目]

■スポーツ交流

・ファミリーバドミントン：浜野重夫 氏（徳島県・鳴門市総合型地域スポーツクラブ NICE）

・卓球バレー：笹岡真 氏（高知県・高知県立障害者スポーツセンター）

・スマイルボウリング：龍山義弘 氏（愛媛県・総合型地域スポーツクラブ春日館）

・フィットネスキックボクシング：豊島孝尚 氏（香川県・まちなかスポーツ紫雲）

■講演「総合型地域スポーツクラブ育成プラン 2013」について

講師：青田慎太郎 氏（公益財団法人日本体育協会クラブ育成課課長）

■パネルディスカッション「四国はひとつ～つくろう！お遍路さんネットワーク～」

コーディネーター：齊藤栄嗣 氏（四国ブロック実行委員会副委員長）

パネリスト：鍋島龍夫 氏（四国ブロック実行委員会委員長）

井澤秀輝 氏（SC 全国ネット徳島県代表委員）

武市光徳 氏（高知県総合型クラブ連絡協議会副理事長）

谷本稔 氏（愛媛県総合型クラブ連絡協議会副会長）

野崎武司 氏（SC 全国ネット香川県代表委員）

■閉会式

【概要】

1日目は、初対面であるクラブ間の壁(緊張)を取り除くために、参加者全員で交流アイスブレーキングを実施した。2人1組でのじゃんけんゲームなど、簡単なレクリエーションで体を動かしながら交流した。笑い声の絶えない時間となり、直後の休憩時間には、参加者同士で情報交換をする姿がいたるところで見られた。続いて「徹底談議」と題し、四国4県の先進クラブ関係者とともに質疑応答・意見交換を行った。「各々の総合型クラブが今後も組織として“生き残る”ための策を考える」ことに重点を置き、2時間を超える長時間にわたって活発な議論が展開された。

2日目は、四国ブロック名物「スポーツ交流」からはじまった。各県から特色ある種目が集まり、道具の入手方法やルールについて学んだ後、実際に体験し、白熱した雰囲気の中で各スポーツに取り組んでいた。午後からは、日本体育協会クラブ育成課長より、平成25年7月に発表された「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」について講演、併せて toto 助成事業を受けるうえでの心得について説明があった。最後は、各県より実行委員及び SC 全国ネット代表委員、連絡協議会役員に登壇いただき、四国ブロック連絡協議会の設立に向けて意見を交わした。

【討議内容】

【1日目】

【参加者交流アイスブレーキング】

レクリエーションコーディネーターである講師のもと、自己紹介からはじまり、2人1組でのじゃんけんゲームや「木の中のリス」など、簡単なレクリエーションで体を動かしながら交流した。今回が初めての試みだったが、笑い声の絶えない1時間となった。その後の休憩時間には、参加者同士が打ち解け、情報交換をする姿がいたるところで見られた。



【クラブが「生き残る」ためのテーマ別徹底談議】

4テーマに分かれ、各テーマ担当クラブの事例発表の後、質疑応答を兼ねた意見交換を行った。

- ①「toto 助成事業の活用」では、NPO 法人うだつコミュニティスポーツクラブが情報提供を行い、それを受け、自立支援事業実施クラブ、助成事業を受けていないクラブの関係者がそれぞれの立場から意見を出し合った。
- ②「背伸びをしたクラブ運営」では、一般社団法人高知チャレンジドクラブのもと、各クラブの課題を出し合い、(1) toto 助成事業の期間終了に向けて、(2) 会員を増やすためには、という2つの視点から具体的な解決策を議論した。「助成事業では、県体協や自治体、スポーツ振興事業団など各助成団体の担当者まで直接足を運んで問い合わせる」という片岡講師のフットワークの軽さと、何事にもまずチャレンジしてみる姿勢に参加者は勇気ももらっていた。
- ③「スポンサー探しの秘訣」では、おおずスポーツクラブから情報提供があり、その後各クラブの抱える課題や悩みなどについて話し合った。おおずスポーツクラブで実際に行われているネーミングライ



ツやユニフォームのスポンサー契約など、具体的な話を聞く中で、様々な意見が挙がり、活発な議論が行われていた。

- ④「行政とクラブの関係づくり」では、三木町長にお越しいただき、さぬき三木スポーツクラブとともに、行政とクラブの理想的な関係構築について、(1)町体育協会との関係、(2)地域づくりを担うクラブ、という2つの視点からお話しいただいた。町長の話を通じて直接聞くことのできる貴重な機会に「我が町の担当者に聞いてほしい」「勇気が湧いてきた」という参加者もいた。



【2日目】

【スポーツ交流】

会場の体育館を4ブースに分け、ファミリーバドミントン、卓球バレー、スマイルボウリング、フィットネスキックボクシングの4種目が行われた。各県1種目ずつ持ち寄りで行う四国ブロックの恒例プログラムであり、楽しみにしている参加者も多い。各種目の実施とともに、用具の購入・レンタル方法、指導者の派遣などについて講師と積極的に情報を交換し、「うちのクラブでも取り入れよう！」という声があちこちで聞こえてきた。



【講演】

60分の講演時間のうち、30分は「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」について、後半30分は toto 助成事業の活用方法について説明があった。toto 助成事業説明については「toto 助成事業以外の外部財源確保にも努めてほしい」「助成期間中から収益の上がる事業を計画・展開してほしい」など実務的な内容も多く、参加者は資料に真剣に目を通し、メモを取りながら熱心に耳を傾けていた。

【パネルディスカッション】

四国4県を代表するクラブ関係者が登壇し、各県総合型クラブ連絡協議会の年間活動内容や収支といった現状、課題等についてお話があった。その後、四国ブロック単位の連絡協議会設立に向け、「ニュースポーツなどの種目指導者の派遣をしてほしい」「県外から講師を招く際は、自県以外に隣県にも招くことで、旅費を折半し負担を分散させることができるのでは」といった意見が交わされ、最後は四国ブロック連絡協議会設立に向けて満場一致で拍手が起こった。



(次年度、愛媛県でのクラブネットワークアクション開催の際に設立総会を予定)

【まとめ】

本年度から toto 助成を活用しての事業実施となったことで、1) 参加費を払ってでも参加したいと思う魅力あるプログラムの提供、2) 2日間を通し、四国の全クラブ関係者にとって得るものがあるプログラムの提供、の2点に重点を置き、実行委員で議論を重ねた。過去の“クラブミーティング”とは、実施体制や参加体制が一変し、最初は戸惑ったが「新たなスタートだ」という意識で取り組んだ。

四国ブロックは、他ブロックと比較しても規模が小さいため、県を越えての連携が図りやすいことが強みである。それ故、知識を得ること以上に、人脈づくりが求められる傾向にある。本年度初めて実施したアイスブレイキングはそれに倣ったプログラムであり、大変好評をいただいた。今後も、毎年参加者全員で交流が出来るプログラムを企画していきたい。

最後のパネルディスカッションでは、『四国はひとつ』を合言葉に、四国ブロック総合型クラブ連絡協議会設立に向けての談議も行うことができた。今後の四国ブロック単位での交流にも繋がる有意義な会となった。



四国ブロッククラブネットワークアクション 2013

実行委員長 鍋島 龍夫